

ISSN 2186 – 3989

外国学会発表報告

EJHIB2019 – 第二回南米日本語教育シンポジウム –

INTERNATIONAL CONFERENCE ON SOCIAL, LINGUISTIC  
AND HUMAN MOBILITY AND INTEGRATION

2019年8月29日(木)～9月8日(日) サンパウロ(ブラジル)

国際交流センター 横田 隆志

北陸大学紀要  
第48号(2020年3月)抜刷

## 外国学会発表報告

EJHIB2019 - 第二回南米日本語教育シンポジウム -

### INTERNATIONAL CONFERENCE ON SOCIAL, LINGUISTIC AND HUMAN MOBILITY AND INTEGRATION

2019年8月29日(木)～9月8日(日) サンパウロ(ブラジル)

国際交流センター 横田 隆志

発表題目：「ブラジリアンタウンにおける公立学校での多文化共生について」

—茨城県常総市の水海道中学校の例から—



ブラジルにおける日本語教育は、日本人移民子弟の継承語教育が中心であり、南米最大の約 180 万人の日系人口をもつブラジル日系社会での日本語教育を背景に発展してきた。しかしながら、日系社会での使用言語が日本語からポルトガル語に変化するのに伴って、日本の「国語」の教科書を使用した「継承語教育」から「外国語としての日本語教育」が主になりつつある。また、世界の多くの日本語学習者のようにポップカルチャーへの関心から日本語学習を始める非日系の学習者も増加している。更には、1990 年の「出入国管理及び難民認定法」の施行により、日本への出稼ぎで日本とブラジルを往来する日系ブラジル人が増加し、ブラジルに帰国した「帰国生」と呼ばれる日系ブラジル人に対する日本語教育も行われている。

ブラジルは移民の受け入れと統合に関する長い歴史をもつ国であり、地球規模の往還とそれによる様々な動態性が観察されるユニークな場である。社会・人・ことばの動態性と統合についての研究成果をブラジルで共有することは、非常に創造的な機会になる場であると考えられている。そこで、系移民、移動する子ども、移民文学など幅広いテーマで複言語・複文化時代の日本語教育について考える場として、2015 年 8 月の EHJIB2015 では国際語としての日本語・日本語教育の在り方をめぐりサンパウロで日本語教育シンポジウムが行われた。その中で、言語や社会を一つに焦点化・分断せず、より多様で包括的な視点で、移動によって起こる、ことば・文化・社会の動態性と統合について考える場を提供することが必要と実行委員は考え、今回の EHJIB2019 が開催された。

今回の学会はサンパウロにあるジャパン・ハウスで開催された。ジャパン・ハウスは、外務省が戦略的対外発信の強化に向けた取組の一環として、サンパウロに設置した対外発信拠点である。これま

で日本に興味のなかった人々も含め、幅広い層に向けて日本の多様な魅力、政策や取組を伝え、親日派・知日派の裾野を拡大していくことを目的とし、文化、ビジネス教育などの交流活動を行っている。建物の雰囲気も日本の伝統技術を空間で感じることができるようなものであった。

今回の私の研究発表は「ブラジリアンタウンにおける公立学校での多文化共生について」というタイトルで茨城県常総市にある水海道中学校での外国人学生への日本語教育、外国人学生の国際理解教育などを多文化共生という視点で捉え、調査を行った研究の報告である。日系ブラジル人の移動によって日本各地に日系ブラジル人や在日ブラジル人が多く暮らしている地域である「ブラジリアンタウン」が日本には数多く存在している。そこにはブラジル人向けのレストランやスーパーなどがあるために「日本の文化慣習」を学ばずに「自国のコミュニティ」を作ってしまう現象が起りやすく、地域社会でのセグレート化が進む傾向がある。常総市もブラジリアンタウンであり、水海道中学校にはブラジル人の生徒が多い。しかし、水海道中学校ではブラジル人を中心とした外国人生徒と日本人生徒が分け隔てなく生活しており、外国人をこれからの日本社会の構成員として位置づける多文化共生を地域社会に広める可能性がある中学校であると考え、外国人生徒への日本語教育、外国人生徒の国際理解教育などを多文化共生という視点で捉え、調査を行った。日本語教育に関わる教師や職員、外国人生徒、日本人生徒にインタビューを行い、多文化共生についてどのような意識があるのかを明らかにした。

今回の学会では南米の国だけではなく、世界中から研究者が参加し、多くの日本語教育関係者と交流することができた。そして、交流を通じて日系の学校の様子、サンパウロの日本人街について、日系の人々の情報などを知ることができた。参加者の日本語教育のバラエティの多さに日本語教育の大きさや深さを感じた。一方、今回の私の発表を聞きに来てくれた方が水海道中学校のブラジル人生徒に関わっている NGO の関係者だったり、親類が水海道中学校に通っていたりと日本語教育界の狭さも感じた。また、日系の学校の様子、日系の人々の情報などを知るだけではなく、サンパウロの日本人街を実際に見ることができたのは非常に有意義な経験であった。

